

校長室だより

共学共高

第
35
号

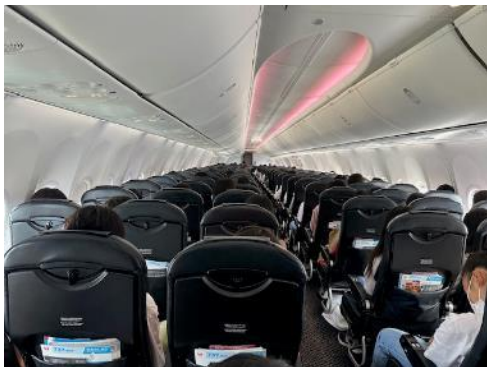
令和4年11月16日発行

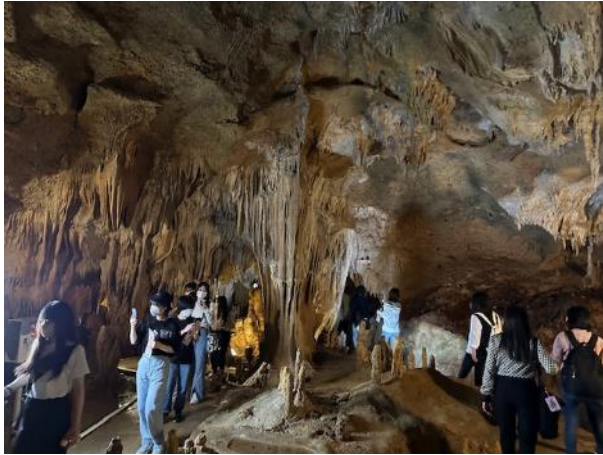
発行責任者
白梅学園高等学校長
武内 彰

～修学旅行特集その3～

修学旅行3日目。本島から石垣島へ移動する日である。バスで那覇空港へ向かい、新石垣空港へ飛ぶ。約1時間のフライトである。那覇空港では、「沖縄・宮古島コース」の生徒たち20名と搭乗口の通路越しに対面することができた。事前にお互いの引率教員がリスク防止の観点から過度に接触しないように呼び掛けていたこともあり、通路を挟んで手を振って久しぶりの対面を喜んだ。新石垣空港へ着くと、バスに乗り、宿泊するホテルへ向かい、そこで昼食をとる。その後は、各コースに分かれての体験学習である。

私は、O先生と共に「石垣島 自然学習+文化学習+川平湾観光」コースの引率である。最初の訪問地は、「石垣島鍾乳洞」である。山口県の秋芳洞ほどは大きくないだろうなどと勝手に想像していたが、なかなか立派な鍾乳洞であった。途中イルミネーションによる演出があったり、「トトロに似た鍾乳石」があったりした。近くにいた生徒と、トトロの後ろ姿なのか正面の姿なのか、私との見解に相違が生じたが、おそらく生徒の方が正しい。



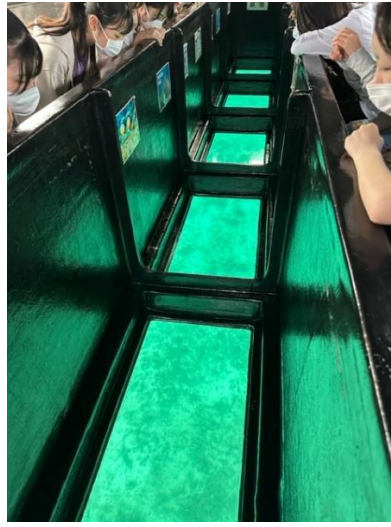


次に訪れたのは、「石垣やいま村」である。ここには国・登録有形文化財が展示されている。一般民家や海人の家、農民の家などを見て回ることができる。リスザル園では、可愛いリスたちを目の前で見ることができ、生徒たちは写真を撮っていた。歩みを進めてアンパルの塔に上ると、周囲の海を一望することができ、素晴らしい景観であった。



さらに、バスで川平湾へ向かい、グラスボート体験である。船底がガラス張りになっていて、海の中の様子を見ることができるのだ。途中で一瞬ではあったが、ウミガメを見ることができた。また、種類はわからないが、水色や青色の美しい魚、サンゴ礁、シャコガイなどの様子も堪能することができた。海は透き通ったエメラルドグリーン色をしており、砂浜の砂も白く輝いている。ここには豊かな自然がある。開放感があって、生徒たちも楽しんでいる様子だ。

バスでホテルへ戻り、3日目の夜が更けていく。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）